

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2020年12月27日（日）

主 題：「満ち足りる人生へ向かう」（2）

—等身大で歩く—

テキスト：エペソ人への手紙3章19節

**はじめに**

・私たちは2020年、最後の聖日礼拝日を迎えました。今年は、コロナ禍によっていろいろなことがありましたが、私たちは教会で毎聖日に礼拝を持てましたことを先ず感謝したいと思います。

・それでは、年間聖句（エペソ3：19）を、皆様とご一緒にお読みしましょう！

今日のメッセージは、今年4月にお語りした年間聖句をもう一度心静めて、神の前に出て、主のお声を聞いてまいりたいと思います。

**3:19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。**

・今回の「コロナウイルス感染症」は、またたく間に全世界へ拡散してしまいました。日本ばかりでなく、世界の多くの国々で死者と感染者が出て、私たちはまだ戦いの渦中でありま。ここ大阪も「緊急事態宣言」が発令され、いろいろな制限と自粛が要請されています。

・今、世界が「コロナウイルス」で抱えている問題の1つは、医療崩壊です。

感染症患者を受け入れることができる病院の不足、ウイルス専門の医療従事者の不足、医薬品の不足などが現実問題となっています。小さなウイルスによって、世界はこれほど混乱し、人間は打つ手がなくパニック状態に陥るような存在であることを、私たちは確認する者です。

・私たちは、少しでも早い終息を願い、互いに協力し、自粛し、この大きな試練を乗り越えたいものです。今日も、多くの方々が試練と苦難の渦中に置かれていますので、私たちは祈るものです。

・ところで今から約2000年前、伝道者パウロは、形は異なりますが、試練と苦難の渦中にありました。彼はキリストの福音を宣べ伝えたために、捕らえられ獄に入れられました。エペソ人への手紙は、その獄の中から書き送られた手紙、獄中書簡です。

・この書簡を読んでいくと分かることは、彼は苦しみと試練の中にありながら、倒れるのではなく、「強い人」であったことです。驚きです！どうして、彼はこのような力強い書簡を書けたのでしょうか。彼はこう述べました。

**3:14 こういうわけで、私は膝をかがめて、**

**3:15 天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父の前に祈ります。**

・パウロは膝をかがめ、神に祈りをささげました。彼の祈りの目標は19節です。

**3:19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。**

・つまり、苦難の中で不足を訴えるのではなく、手紙の受取人（聖徒たち）が豊かに生きることを願いました。苦難と試練の中にあっても、どうすれば「**神の満ちあふれる豊かさ**」に生きることができるかを説きました。今日は次の2点から考えてみたいと思います。

## 大切なポイント

### 1. 「キリストの愛」を知ること

3:19 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。

- ・パウロはここで、「人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。」と言いました。パウロが語る「キリストの愛」とは、イエス・キリストが私たちの罪のために、あの恐ろしい十字架にかかり、3日後に死からよみがえってくださったことです。それによって神の救いのご計画が成就したアガペーの愛のことです。
- ・「キリストの愛」によって、いつでも、どこでも、イエス・キリストを信じる人は、罪の赦しを受けることができます。そして、罪赦された聖徒が集められるところが、教会（エクレシア）です。神は教会を通して、「キリストの愛」は具体化されていかれます。
- ・パウロはこう述べました。

3:17 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。そして、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、

- ・パウロは、ここで信仰によってキリストが内に住んでくださること。そして基礎は愛であると、述べました。そして

3:18 すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、

- ・パウロはここで、「キリストの愛」を4面から語りました。

- ① 「広さ」 ▶ 全世界のすべての国民に広がる
- ② 「長さ」 ▶ 歴史上のすべての世代
- ③ 「深さ」 ▶ 罪の深みにいる全ての人におよぶ
- ④ 「高さ」 ▶ 天（御国）の高嶺にまで引き上げる

- ・パウロは、これら4点を「理解する力をもつように」と祈りました。

「理解する」という語の原意は、「経験に基づいて見極める」という意味です。

「キリストの愛」は無量大で、人知をはるかに超えた「アガペー愛」です。

- ・「キリストの愛」には、広大性があり、完全であり、無限につづきます。その「キリストの愛」は、神の啓示によって明らかにされるものです。

パウロはローマ人への手紙8章で、次のように語りました。

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、

8:39 高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

- ・愛する皆さん。イエスを信じ「キリストの愛」に結ばれた人は、「キリストの愛」に包まれる人となります。⇒ 決して見捨てられることはありません。

パウロは聖徒たちの間で、「キリストの愛」が確かな堅いものとなることを願い（祈り）ました。

- ・「キリストの愛」に基礎を置き、「キリストの愛」に根差す人は、「キリストの愛」が、その人を包みます。パウロはその「キリストの愛」がどんなに大いなるものか4面から説きました。私たちはその「キリストの愛」をさらに深く理解（経験に基づいて）することが、大切なことです。
- ・では、どうすれば、そのような聖徒になるのでしょうか。それは次の「内なる人が強められるこ

と」であります。

## 2. 等身大に生きること

### 1) 神を信頼する

- ・この書簡を書いた時、パウロは獄中にいましたが、彼の願いは19節の聖句に秘められていました。

**3:19** 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。

- ・彼の願いは、心の底から出てきたものでした。それは彼の信仰でもありました。

- ① 彼は命がけの信仰を持っていた。
- ② 彼は祈りの力を経験していた。
- ③ 彼は状況に支配されない信仰を持っていた。

- ・これら3点が、彼の信仰をダイナミックなものにさせたと思います。

彼は次のように述べました。2コリント12章

**12:2** 私はキリストにある一人の人を知っています。この人は十四年前に、第三の天にまで引き上げられました。肉体のままであったのか、私は知りません。肉体を離れてであったのか、それも知りません。神がご存じです。

**12:4** 彼はパラダイスに引き上げられて、言い表すこともできない、人間が語ることを許されていないことばを聞きました。

神は信仰に生きたパウロに、このような特別な祝福を与えられました。

- ・パウロは確かに信仰の人でした。本当に生ける神を信じた人でした。信仰がなければ、「キリストの愛」を知ることはできません。信仰は「キリストの愛」を知る前提条件です。
- ・私たちが愛に根差し、愛に基礎を置くならば、「キリストの愛」の広さ、長さ、深さ、高さを知る理解力をもつようにされます。そして、神の満ち満ちた高さにまで成長させていただけるのです。
- ・パウロはひざをかがめて、父なる神に祈りました。信仰が強いものとなるために、キリストが私たちの心のうちに住んでくださるよう願いました。

**3:17** 信仰によって、あなたがたの心のうちにキリストを住まわせてくださいますように。

- ・神を真に信頼する信仰は、人を強くさせます。苦難、試練、不足が生じるような中でも、強い人にされます。ですから、へブル人への手紙11章を開きますと、旧約時代の先人たちは「信仰によって」歩いたことが分ります。苦難、試練、誘惑の中にあつて、先人たちは「信仰によって」勝利を獲得しました。
- ・ですから、どんな状況になっても、「キリストの愛」から私たちを引き離すものはありません。それを「信仰によって」受け止める人は幸いです。私たちは神を信頼し歩みましょう。そこで大切なことがあります。

### 2) 内なる人が強められること

**3:16** どうか御父が、その栄光の豊かさにしたがって、内なる人に働く御霊により、力をもってあなたがたを強めてくださいますように。

- ・パウロは、人間には「外なる人」と「内なる人」の2面があると言いました。

## 2 コリント人への手紙 4 章

4:16 ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

- どこが違うかと言え、外なる人は衰えていきますが、内なる人は逆に強められ、新しくされていくことです。
- パウロは内なる人が強められ、成長する過程は、御霊によると述べました。御霊には「力」(dynamis : デイナミス) があります。これはダイナマイトの語源となった語です。本当の意味で、強められるのは、人の言葉ではありません。人の力でもありません。神の御霊によるのです。

### 3) 等身大の信仰生活

- 使徒の働き 19 章を開きますと、神はパウロを通して驚くべき力あるわざを行われました。
 

19:11 神はパウロの手によって、驚くべき力あるわざを行われた。

19:12 彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを、持って行って病人たちに当てると、病気が去り、悪霊も出て行くほどであった。

19:13 ところが、ユダヤ人の巡回祈祷師のうちの何人かが、悪霊につかれている人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる」と言ってみた。

19:14 このようなことをしていたのは、ユダヤ人の祭司長スケワという人の七人の息子たちであった。

19:15 すると、悪霊が彼らに答えた。「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。」

19:16 そして、悪霊につかれている人が彼らに飛びかかり、皆を押さえつけ、打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家から逃げ出した。

19:17 このことが、エペソに住むユダヤ人とギリシア人のすべてに知れ渡ったので、みな恐れを抱き、主イエスの名をあがめるようになった。
- この記録は良く知られた箇所です。今日、私たちが注目したいことは、パウロの「手ぬぐいや前掛け」です。パウロは天幕作りを職業としていました。縫い付けの道具を入れ、油や汚れを拭き取っていたのが前掛けです。外でテントを設営する際、額を伝って流れる汗を拭うのが手ぬぐいでした。パウロが肌身離さず身につけていたものです。神はそれらを用いて「神はパウロの手によって、驚くべき力あるわざを行われた。」(19:11) と、聖書は記録しています。
- 普段着のパウロが、神の驚くべきわざを行うために用いられました。等身大のパウロがそのまま用いられました。借り物ではありません。彼が日常使っていたものを通し、神はわざをなされました。信仰とは等身大であります。決して借り物ではありません。
- そこで思い浮かべるのは、私の好きな名画ミレーの〈晩鐘〉です。

#### 『例 話』

- 稲の束が積んであるところに、1日の作業を終えて夫婦が手



を合わせて祈っている姿です。後方にある教会の鐘が、まさしく鳴り響いてくるようです。きっとこの夫婦は1日の畑仕事で、衣服も汗にまみれていたでしょう。この絵には神の恵みによって、農作業を終えた夫婦の姿を見ることができます。

- ・なにも立派な会堂や神殿に行つて、というわけではありません。1日の仕事を、神に支えられて終わり、鋤を横に置き、仕事着のまま手を組んで祈っている姿です……。そこには、農夫夫妻の「祈りの姿勢」を見ることができます。神に心から祈る謙遜な「祈りの姿勢」です。
- ・それが、パウロのいう「ひざをかがめて」という意味でしょう。

**3:14** こういうわけで、私は膝をかがめて、

**3:15** 天と地にあるすべての家族の、「家族」という呼び名の元である御父の前に祈ります。

ここに、私たちが強くされる秘訣があります。神の前に、ひざをかがめて祈ることです。神に真剣に祈る人は、強められていきます。

- ・いかがでしょうか。私たちの信仰は等身大でしょうか。外なる人に、心は向いていないでしょうか。私たちは神に愛されたものです。そして神の祝福を受けた者として、歩むために、私たちは内なる人が強められる必要があります。
- ・では、どうすれば良いでしょうか。それは「信仰によって」強くされることです。神を信頼し、等身大の自分で、神に正直に生きることです。

## ま と め

主 題：「満ち足りる人生へ向かう」（2）

—等身大で歩く—

- ・今日は、今年の年間聖句から、私たちクリスチャン生活の生き方について、学びました。2020年、私たちはここまで、どのような歩みをしてきたでしょうか。内なる人が強められ、幸いな信仰生活を過ごしてきたでしょうか。私たちの神への信頼、信仰はいかがでしたでしょうか。
- ・もう一度、今年の年間聖句をご一緒にお読みしましょう。

**3:19** 人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。そのようにして、神の満ちあふれる豊かさにまで、あなたがたが満たされますように。

\* God bless you !